



「湯ノ山明神旧湯治場」保存修理事業について(中)



マンスリー6月号 (No.113) でこの保存事業の概要を報告しましたが、ここではその経過の中で経験した課題などについて報告します。

(左の写真は「湯ノ山明神旧湯治場」の全景)

業務推進体制の課題について

【建築法の制約】

建築士のヘリテージへの取り組みは、ヘリテージマネージャーを養成し、地域に埋もれた文化的価値のある歴史的建造物を発掘し、それを修理したり活用したりする道筋を開き、そのことにより地域の活性化に資することを目的としています。地域の人たちや行政当局などと協力して行う、建築士の意味のある社会貢献活動です。

そのような思いから、当初、この「湯ノ山明神旧湯治場」の修理事業は、広島県建築士会ヘリテージ委員会が、建築士会傘下に誕生したばかりのヘリテージマネージャーの協力の下に取り組む予定でした。

初年度の業務は保存修理のための調査業務でしたので、ヘリテージ委員会で取り組みましたが、調査段階が終わると設計図書の作成や工事発注のための準備業務などに業務内容が移行してきました。建築士法には、報酬を得て設計、工事監理、建築工事契約に関する事務、建築工事の指導監督、などを業として行う時は、建築士事務所の登録が必要と定められています。

ヘリテージへの取り組みは、ヘリテージマネージャーを中心に建築士会のバックアップの下、地域の人々や地域の専門職などと幅広く連携して地域起こしにも資する仕事をしようというイメージでしたから、業としての認識はありませんでした。しかし、建築士会のヘリテージ委員会が継続的に保存修理に関わる業務を行うためには、広島県建築士会が建築士事務所の登録を行う必要がありました。

【業務契約の工夫】

広島県建築士会が建築士事務所登録をすることはいかにも不適切なので、平成26年度以降の業務はヘリテージマネージャーが所属する建築士事務所のジョイントベンチャー（以下JVと記す）を組織して、業務を進行することになりました。この場合、業務の契約はJVと「(宗

広島県ヘリテージ協議会

教法人)湯ノ山明神社」との間で交わすこととなりますが、建築士会やヘリテージ委員会が適宜業務に関わって業務の指導や連携によるオーソライズを図るよう、JV選定のプロセスやJV協定、契約内容に特記を入れております。(詳細をお知りになりたい方は建築士会事務局へお問い合わせください。)

【ヘリテージ協議会の設立へ】

以上の、建築士法の制約、業務契約上の工夫、などの経験を経て、建築士会およびヘリテージ委員会のオーソライズの下にこの活動を推進するために、建築士会とは別組織のヘリテージ協議会を組織することになり、「ヘリテージ推進体制」や「調査等業務委託フロー」などが定められました。

伝統資材の調達や専門施工者の組織化

今回の保存修理事業の内容は、特に損傷の激しいこけら葺きの屋根と、柱や外壁や格子などの損傷木部の現状保存の部分修理です。修理の大部分を占める湯屋は特別な様式を持った建物ではなく、温泉源泉の上屋小屋です。



損傷の激しいこけら葺き



損傷の激しい木部

保存修理のための予算は、所有者負担の軽減などの関係でかなり厳しいものでしたので、地域のことは地域でという原則論的発想で、地元の大工さんによるこけらの製作や木部の施工を提案。文化庁係官や地元の皆さんの賛同を得て取り組みましたが、こけらの製作や葺き替えは地元では不可能で、安い価格で製作や施工をするこけら葺きの専門施工者を求めて探し回り、大変苦労することになりました…次回に続く。



こけらの製作



こけらの完成品

報告者：平成25年当時の広島県建築士会会長
 「湯ノ山明神旧湯治場」保存修理事業
 設計監理業務共同企業体 代表 錦織 亮雄



表紙写真について

福山市鞆支所・鞆公民館

- 設計／株式会社 あい設計
- 監理／福山市建設局建築部 営繕課
- 施工／大和・オキ福山市鞆支所
鞆公民館建設工事共同企業体
- 所在地／福山市鞆町
- 用途／支所・公民館
- 構造規模／鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
3階建て
- 敷地面積／788.23㎡
- 建築面積／687.14㎡
- 延床面積／1,336.17㎡
- 竣工／2016年5月



建物のコンセプトを、『鞆の歴史と未来を結ぶ、開かれた施設』とし、外装ルーバーに鞆地区の歴史的建築物に見られる「虫籠窓」や「出格子窓」をイメージしたデザインを用い、常夜灯に見立て上部がライトアップされたエレベーター、「雁木」をイメージした階段状の広場などを設け、鞆の町並みとの調和を図りながら、歴史を感じられる施設としています。

また、外部には連続したガラス開口を設け、町を行き交う人からも内部が感じられる、町に「開かれた施設」としています。また、ガラス張りのエレベーターを利用し、アプローチできる屋上階には、海風を感じながら日東第一景勝と称される素晴らしい風景を眺められる眺望デッキを整備しています。

本施設は、支所機能、公民館機能、観光交流機能等を併せ持つ地域の交流拠点施設として、鞆地区の有する歴史、風景、町並みと調和した、鞆の玄関口にふさわしい施設として、再整備したものです。

CPD認定プログラム(9～11月の広島県内実施分)

8月26日現在

日時	プログラム名	単位	主催	連絡先
9/7	知っておきたいコンクリートのいろはの「い」!	6	建材サービスセンター	03-3963-2011
9/9	耐震リフォーム達人塾(ベーシックコース)	3	広島県建築課	082-513-4133
9/9	建築構造設計・温故知真 ー既存建築物の危険性と説明責任ー	2	広島県東部生コンクリート協同組合	084-973-2155
9/11	省エネ・施工技術者講習会	6	木を活かす建築推進協議会	03-2560-2882
9/12	広島市総合評価落札方式対応セミナー A 午前コース	3	建設情報化協議会	03-5294-6200
9/12	広島市総合評価落札方式対応セミナー B 午後コース	3	建設情報化協議会	03-5294-6200
9/12	広島市総合評価落札方式対応セミナー C 全日コース	6	建設情報化協議会	03-5294-6200
9/13	ホテルの水まわりセミナー(13:15～)	2	TOTO(株)	082-505-1029
9/13	ホテルの水まわりセミナー(16:00～)	2	TOTO(株)	082-505-1029
9/14	省エネ・設計技術者講習会	4	木を活かす建築推進協議会	03-2560-2882
9/15	監理技術者講習	6	広島県建築士会	082-244-6830
9/21	建築士会インスペクター養成講座	4	広島県建築士会	082-244-6830
9/24	鋼構造セミナー「上下階でコラム柱のサイズを変更する仕口部の設計と製作」	2	日本建築学会	082-921-9420
9/29	「基礎ぐい工事監理ガイドライン」の解説講習会	4	広島県建築士会	082-244-6830
10/5	省エネ・設計技術者講習会	4	木を活かす建築推進協議会	03-2560-2882
10/5	建築デザインにおける「手書き」vs「デジタル」	2	広島県建築士会呉地区支部	0823-25-0230
10/6	建築技術者のための「鉄骨工事の積算」講習会	5	日本建築積算協会	082-221-9759
10/8	省エネ・施工技術者講習会	6	木を活かす建築推進協議会	03-2560-2882
10/12	一級/二級/木造建築士定期講習(6D-01)	6	広島県建築士会	082-244-6830
10/13	監理技術者講習	6	広島県建築士会	082-244-6830
10/16	省エネ・施工技術者講習会	6	木を活かす建築推進協議会	03-2560-2882
10/19	一級/二級/木造建築士定期講習(6D-02)	6	広島県建築士会	082-244-6830
10/19	省エネ・設計技術者講習会	4	木を活かす建築推進協議会	03-2560-2882
10/21	中堅社員技術講習会	6	日本建築協会中国支部	082-232-6471
10/30	省エネ・施工技術者講習会	6	木を活かす建築推進協議会	03-2560-2882
11/2	建築士会インスペクター養成講座	4	広島県建築士会	082-244-6830

安全で安心な住まいづくりをサポートします。



- ◆ 建築確認・検査
- ◆ 住宅性能評価
- ◆ フラット35適合証明
- ◆ 長期優良住宅技術審査
- ◆ 低炭素建築物技術審査
- ◆ 住宅かし担保責任保険
- ◆ 省エネ関連業務
- ◆ すまい給付金サポート
- ◆ リフォーム評価ナビ
- ◆ 地域型住宅グリーン化事業申請窓口
- ◆ ベターリビングリフォーム審査業務

指定確認検査機関・登録住宅性能評価機関
株式会社 広島建築住宅センター
URL: <http://www.hkjc.co.jp>

本社 〒730-0013 広島市中区八丁堀 15-10
TEL(082)228-2220 FAX(082)228-2231
営業所 〒720-0034 福山市若松町 8-22
TEL(084)928-3979 FAX(084)928-3974

「より早く・より公正に・より親切に」をモットーに より確かなサービスを提供します

- 指定確認検査機関
- 登録住宅性能評価機関
- 指定構造計算適合性判定機関
- 登録建築物調査機関
- 適合証明業務(フラット35)
- 長期優良住宅認定審査業務
- 住宅瑕疵担保責任保険業務
- 調査診断業務(耐震診断等)
- 耐震診断判定業務
- 住宅省エネラベル適合性評価業務
- 建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)評価業務
- すまい給付金関連業務

株式会社 ジェイ・イー・サポート
URL <http://www.jesupport.jp/>

本社 〒730-0013 広島市中区八丁堀 15-8-6F
TEL: 082-836-3300 FAX: 082-228-8201
支店: 東京
e-mail: mail@jesupport.jp

ぷろじえくと ニュース

都市内木造の可能性を考えるゼミナール 第1回 開催のお知らせ(CPD認定プログラム) 広島支部まちづくり委員会

近年、RC造やS造だけでしか建てられなかった都市部に、新たな木造空間をつくれるようになりました。第1回は、鹿島建設が開発した耐火集成材FRウッドを素材に、都市内木造の課題や、今後の新たな展開について考えます。

■日時: 10月1日(土) 16:30~18:30(開場16:00)

■会場: 合人社ウエンディひと・まちプラザ
北棟6F マルチメディアスタジオ
広島市中区袋町6番36号 ☎(082)545-3911

■講師: 鹿島建設 技術研究所 抱憲誓研究員
鹿島建設 建築設計本部 比留間基晃氏

■定員: 60名 ■受講料: 無料

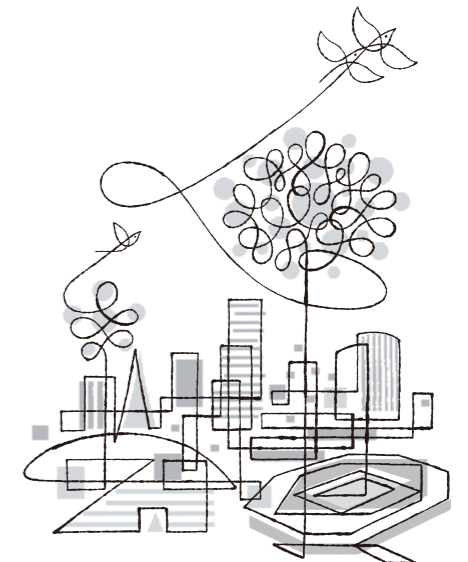
■問合せ先: 広島支部事務局 TEL(082)244-6836

■申込方法: 9月15日(木)までに、FAXにて
申し込みをお願いします。

広島支部事務局宛 FAX (082) 244-6836

氏名	
勤務先	

このページをコピーして申し込み用紙として下さい。



竹中工務店は「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念のもと、手掛ける建築の一つひとつを丹精込めてつくってまいりました。これからも絶えず人々との対話を重ね、技術の研鑽を続けることで、時代が求める最良のソリューションを提供していきます。そして、サステナブル社会を実現し、地球の未来につないでいきます。

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA

平成28年度 青年・女性建築士の集い 中四国ブロック岡山大会～伝統の継承～

三原支部 吉原 慶佑

6月11日、12日の2日間にわたり『青年・女性建築士の集い 中四国ブロック岡山大会』が開催されました。

昨年は尾道市で開催されたこともあり、私も実行委員として、中四国ブロック大会に携わってきました。開催に当たっての準備作業など、実行委員としての苦勞が今でも思い出されます。あれからもう1年が過ぎてしまったのですから、時が経つのは早いものです。

さて、今回の岡山大会では『伝統の継承』というテーマの下、まずは岡山の伝統芸能「備中神楽」が披露され、開会式が始まりました。「備中神楽」がどういったものか、普段こういった伝統芸能を見ることは無いのですが、その舞や独特の動きなど、岡山の伝統芸能を間近で感じることができました。

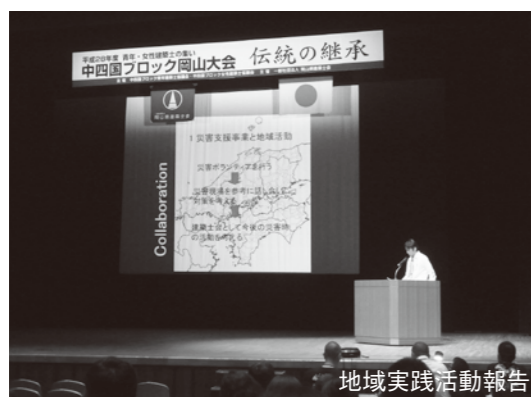
■開会式も終わり、地域実践活動報告会が始まりました。中四国 9 県の代表者が大会テーマに沿った活動を報告していきます。テーマは『伝統の継承』ということで、地域・技術などをどのように受け継ぎ伝えていくか、また建築物の継承—空き家再生など、各県様々な活動内容が発表されました。

広島県代表として、三原支部が発表。そのテーマは、「コラボレーション」、3つの活動を発表しました。

1. 災害支援事業と地域活動
2. 「山脇邸」改装事業
3. 三原「やっさ祭り」支援事業

「コラボレーション」とは、地域の住民、市や県などの行政、そして企業などを巻き込み、建築士と共に活動していくことです。建築士としての技術、知識・アイデアなどを提供することで、地域の活性化にもつなげていきたい—そんな発表内容だったように感じました。

活動自体は、今後いろいろな課題が出てくると思いますが、三原市の「やっさ祭り」というお祭りを、中四国9県に伝えられたと思います。



地域実践活動報告

■分科会はそれぞれテーマに分かれており、私は、基調講演『都市の「古層」—岡山城下町から考える』に参加しました。他にも、ワークショップで木材の刻みを体験できるものもあり、興味を引くものでした。

■基調講演では、岡山城や城下町の絵図から、現在の街と比較しながら街の中に歴史の「古層」を見つけ、再発見するといったものでした。城下町の絵図と現在の街並みとを比較することで、その歴史が見えてきます。その中で城郭や町の成り立ちなど、様々な情報を得ることができます。震災によって失われた岡山城や城下町の姿も、絵図と現代の街を比較することで確認することができるのです。



基調講演

4月に熊本地震で被災した熊本城で見られた、土台となる石垣が崩れてその一角だけが残り、櫓を柱状になった石垣で支えているものと同じ状態のものが、岡山城の昔の絵図の中に書き記されていました。地震が原因かどうかは分かっていませんが、現在復旧した石垣と、当初崩れた石垣の絵図とを比較すると、石垣一つ一つの形状も大きさも同じように絵図に描かれており、その災害状況を細かく絵図に書き記されたことで、こうして後世まで受け継がれているものなのだと感じました。

■この後、懇親会で他県の建築士と親睦を深め、2日目のエスカレーションへと進んでいきました。「基調講演」で説明を受けた、絵図に記された岡山城やその街並みを歩いて周り、その景色を眺めながら、「中四国ブロック岡山大会」を終えることができました。

建築物・地域・技術・技法などの建築に限らず、多くの伝統が存在する中で、それらを受け継ぐには、その伝統を学び、知識を深めることが必要であると感じました。同時に、その素晴らしい伝統をどのようにして後世に伝えていくか。『伝統の継承』とは…この大会を通して受け継ぎ伝えるその大切さを再認識させられたように感じました。

地域だより
呉

呉YWCA「なかなか遺産第3号認証記念ビア・パーティー」

呉地区支部 濱井 義樹

7月23日(土)、呉YWCAにおいて「なかなか遺産第3号認証記念 ビア・パーティー」が開催され、参加者約40名が、多彩な料理と生ビールで盛り上がりました。



遠路はるばるお越し頂いた「国際なかなか遺産委員会」の腰原幹雄東大教授のご発声による乾杯のあとは、手作りの折り紙キャンドルスタンドへの点灯です。

ハイペースで生ビールが注がれ、賑やかになってきた会場の中では、今回初めてここに来たという人も交えて、

呉YWCAの今後についての議論が行われています。

そうして夕暮れ時を迎えると、恒例となりつつあるライトアップの開始です。商店街の土曜夜市のため普段より多い歩行者の大半が、足を止め見入っていました。

呉地区支部まちづくり委員会では、腰原先生にご協力頂き、近々、呉YWCAの建築物についての耐震診断調査を行う予定ですが、調査以降の改修・保全・活用等については、なかなかその方向性が定まりません。

ただ、このような敷居の低いイベントであれば、より多くの方々にこの建築物を知ってもらい、親しんでもらえるという確信が持てましたので、当面は、こうした路線を続けていくことが正解かもしれません。



折り紙キャンドルスタンド

テーブルいっぱい並んだ手作り料理

株式会社 ティーエス ハマモト

一級建築士事務所 ISO9001 認証取得



大規模修繕工事
各種環境対応事業
調査 診断 設計 施工

〒731-0135 広島市安佐南区長束4丁目16-2
TEL 082-238-1511 FAX 082-238-1513

指定確認検査機関(中国地方整備局長指定第1号) 登録住宅性能評価機関(中国地方整備局長登録第5号) 登録建築物調査機関(中国地方整備局長登録第1号)
認定低炭素住宅 長期優良住宅 建築確認 住宅瑕疵保険 フラット35 適合証明 住宅性能評価 住宅省エネラベル

ハウスプラス中国は
迅速、的確な審査で、皆様の建物の
安全、安心をサポートします。

中国エリアをすっぴりカバーしています

Energia ハウスプラス中国住宅保証株式会社
http://www.jutakuhosho.com/

広島本店：広島市中区国泰寺町1-3-32 国泰寺ビル1階
TEL：082-545-5607 FAX：082-545-5608
広島北支店：広島市安佐南区西原6-9-40-7 TEL：082-832-3310 FAX：082-875-4330
福山支店：福山市西深津町1-10-1 TEL：084-973-9143 FAX：084-973-9146

第26回 全国女性建築士連絡協議会に参加して

社会活動委員会 女性部長 野口 美保

「第26回 全国女性建築士連絡協議会」が、7月22日(金)会場:奈良女子大学構内、23日(土)会場:「奈良春日野国際フォーラム薨」と、2日間にわたって開催されました。

4月14日に熊本地震が発生し、本大会の開催について慎重に検討が重ねられました。この協議会では、5年前に発生した東日本大震災の復興状況の情報発信を毎年継続して行ってきた経緯があり、現地熊本の状況報告や今後求められてくること、建築士の役割を模索し続けなければならない、という思いから開催決定となりました。全国から350名を超える女性建築士が参加。「未来へつなぐ居住環境づくり～日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見」と題し、防災をはじめ、エネルギーや歴史的建造物、日本の文化等に注目し、議論を重ねる会となりました。

■ 7月22日(金)

- * 全国女性委員長(部会長)会議
- * 開会式
- * 基調講演「日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見」
講師: 渡辺 光雄氏 (岐阜大学名誉教授)
- * パネルディスカッション
「日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見」
・永井 香織氏 (日本建築士会連合会女性委員長)
・渡辺 光雄氏 (岐阜大学名誉教授)
・湯川 直紀氏
(ライフケア総合研究所代表取締役・理学療法士)
・白田 ゆかり氏 (奈良女子大学大学院生)
・岡田 伸子
(岡田建築設計事務所・奈良県建築士会)
- * 被災地の現状報告
岩手県、宮城県、福島県、茨城県、熊本県

■ 7月23日(土)

- * 分科会
- A: 「防災への取り組み」 神奈川
- B: 「エネルギーと暮らし」 京都
- C: 「歴史的建造物と建物再生」 奈良
- D: 「環境共生住宅～住み継ぐ～」 岡山
- E: 「景観まちづくり」 石川
- F: 「子どもと住環境」 群馬
- G: 「高齢社会と福祉住宅」 愛知・和歌山
- H: 「二地域居住の提案」 長野
- * 全体会 分科会報告、全体総評、閉会の辞

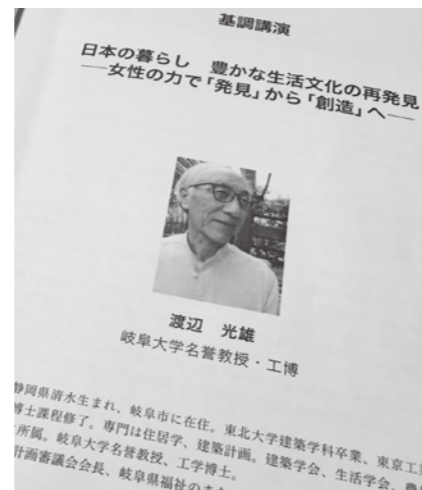


奈良女子大学 記念館(重要文化財) 春日野国際フォーラム薨 建築ホール

基調講演 日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見～女性の力で「発見」から「創造」へ

70歳を過ぎておられる渡辺光雄先生のお話は、日本の住まいの変化をたどるように進められ、様々なキーワードから日本の「暮らし」「感覚やバランス」「複雑さ」などを再確認させる内容が多く詰まっていました。これまでの変化を否定的にとらえるのではなく、今後も変化する「将来の住まいや暮らし」について、前向きに考えることのできる講演会でした。

1. 住宅の「現段階」を考える
建売住宅の増加、家具の増加、サッシの登場、縁側の減少
2. 生活空間を「微感覚」で見直す
些細な疑問を持つこと、地域ごとの細かな生活の比較
3. 和室建築から継承すべき「5ポイント」
ビルトインの知恵、建具開閉による空間変化、畳のモジュール
縁側から庭へ広がる独特な開放感、伝統木造のディテールと仕上げ
4. 住宅に「季節感」をとり戻す
複雑な気候による面倒な暮らし方が衣食住を楽しむ知恵となり豊かさを生む
5. これからの「3つの課題」と住文化
水素エネルギーの実用化に伴う住宅の進化
ユニバーサルデザインのネクストステージ
上記に伴う新しいスペース(部屋・庭)の出現



分科会A「防災への取り組み」

野口 美保

新潟中越地震の際、神奈川県建築士会の皆さんが現地で支援活動をされたことをきっかけに立ち上げられた防災委員会が、その後、防災に関わる様々な他団体(女性委員会・防災委員会・教授・NPO)と連携を持ち、今日に至る活動内容をお話してくださいました。避難所シミュレーションゲーム(HUGのワークショップ)をメインに、「つどう・つくる・つながり・ひろがる」をモットーとして、県下各地で開催されています。防災をテーマにした活動を単独で行うことは、とてもハードルが高いものです。災害が発生した際、行政との連携は必須ですが、他県への支援や援助の際には、建築士をもっと活用するようアプローチする必要があるという意見もありました。女性ということで現地へ入れなくとも、支援の仕方には様々あるので何ができるかを考えたい(小さなことでも)と…東日本大震災を経験した県は勿論、熊本県も参加され、貴重なお話を多く伺うことができました。どこも被災県になる可能性はあります。今、他県との支援ネットワークを構築すること、情報交換も防災活動の一つだと感じます。



分科会C「歴史的建造物と建物再生」

橋本 明美

歴史的町並みを次世代につないでいくには、町並みを構成している町家の保存だけでなく、町家の良さを生かし、現代の生活様式に合うようにどのように対応したのか、所有者が進んで町家を残す意識を持つには何が必要かについて、事例発表と町家の再生についての意見交換が行われました。事例発表は、橿原市今井町伝統的建造物群保存地区内の町家に自らが住むことになり、文化財的価値を損なわずに耐震性能の確保(伝統工法に対応した耐震補強)、建築基準法との整合性、採光・通風の確保や床暖房による住環境の向上、メーター類の景観配慮、根継・格子・むしこ窓・三和土土間等の伝統的工法の取り入れなど、再生された町家の改修についてでした。この地区の町家に新規に住んでいる60組は若い人が多く、その価値を見出す人が増えているそうです。奈良には伝統的工法の技術者がおり、改修に有利な面があるとのことでした。意見交換では、伝建法設立当時は今井町を第1号に指定の動きがあったと、三井所会長からお話がありました。文化財として建物を残したいが、所有者は有難迷惑と思っている人が多く、大阪ではおしかけ見学会を行い、所有者の理解を得るまでおしかける。そのためには、改修資金の調達や税金対策を考えなくてはならないといった報告がありました。文化財の価値を広めるのは建築士の役割の一つですが、資金・税金面については建築士のみでは解決できない問題があります。地域に残して次世代につなげていきたい建物の保存・改修や資金調達は、さらに検討する問題が多いと認識を新たにしました。



分科会F「子どもと住環境」

福島 仁美

総勢約30名参加の分科会でした。内容は主に「紙ぶるる」を使った体験と、イベントの活動報告。子どもが体験するにはとても優れている教材ですが、参加者のほとんどが未体験で、口頭での説明では分かりづらいということで、実際にサンプルとして配布された「紙ぶるる」を組み立て、動かして比較する実演が行われました。近く「紙ぶるる」を使ったイベントを予定している県からは、分かりやすかったので取り入れたいとの意見もありました。「紙ぶるる」は持ち帰ることができ、家族との対話にもつながるもので、建築士会の活動は、イベントだけで終わらせない工夫も考えられていることを改めて認識することができました。イベント開催に当たっての大変さや集客方法など、各県の体験談、質問や意見などが活発に交わされました。活動を継続的に行うには、「市民活動型」のイベントをうまく利用すること、スタッフの負担を減らし、効率的に進めていくためにも、建築士会のメンバーに定期的に情報を流し、いつでも参加しやすい環境を整えておくことの必要性が挙げられました。最後に、過去に分科会で発表された県のその後の経過や、今後の参考になりそうな興味深い活動も伺うことができ、とても有意義な分科会となりました。



来年度は平成29年7月15日・16日に東京で開催予定です。建築士会会員であれば、男女問わずどなたでも参加できます。